



博物館ニュース「SHŪ」

NO. 45

“SHŪ” News of Tamagawa University Museum of Education

2015年9月10日

玉川大學教育博物館



目次

聖預言者イサイヤ(イザヤ)、モイセイ(モーセ)、イリヤ(エリヤ)
 山下りん作 キャンバスに油彩 42.5×69.9cm 明治後期
 展覧会への招待……………2・3 宗教法人静岡ハリストス正教会寄贈

報告・

資料をご寄贈いただきました……4

学内連携の教育活動……………5

開館カレンダー・

利用案内……………6

山下りん(安政4/1857 - 昭和14/1939)は常陸国笠間(茨城県笠間市)に生まれ、浮世絵や日本画を学んだのち、洋画家を志し、明治10(1877)年に工部美術学校に入学しました(女子第1回生)。学校ではフォンタネージの指導を受けましたが、その頃正教会に入信し、イコン(聖像画)の技法を学ぶため、学校を中退してロシアに留学しました。日本初のイコン画家として知られ、近年彼女の作品はさらに評価が高まっています。現在約300点の作品が確認されています。

展覧会への招待

2015年度特別展示 静岡ハリストス正教会寄贈

山下りん・日比和平が描いたイコン

当館は、2015年3月に静岡ハリストス正教会（生神女庇護聖堂）から、山下りんと日比和平のイコン（聖像画）、計20点の寄贈を受けました。

静岡ハリストス正教会は、静岡市北東部に位置し、その鐘楼は新幹線の車窓から見ることができました。静岡における正教の開教は1877（明治10）年にはじまり、1883（明治16）年に市内人宿町に最初の静岡教会会堂を新築し、その後いくたびかの移転を経て、1959（昭和34）年に現在の葵区春日に聖堂を建立しました。聖堂の老朽化にともない、新聖堂の建設が計画され、新しいイコンスタス（祭壇のある至聖所と信者席との間にある仕切り壁）内に収まりきれないイコンを正教会関係者や信者の方々のご好意により、国内有数のイコンコレクションを誇る当館にご恵贈いただきました。

資料は、日本初のイコン画家として各地の正教会に多数の作品を残した山下りん（安政4/1857 - 昭和14/1939）のイコン6点、正教徒で50年以上にわたりイコンを制作した日比和平（大正3/1914 - 平成12/2000）のイコン14点になります。

展示では、寄贈資料20点を中心に、当館のイコンコレクションの中から選んだロシアとギリシアイコン20点のほか、経年により傷みが生じた山下りんのイコンの修復過程もあわせて紹介いたします。

時代や地域は異なりますが、日本、ロシア、ギリシアのイコンのかもしれない出する聖なる世界をご堪能いただければ幸いです。



旧静岡ハリストス正教会



旧静岡ハリストス正教会イコンスタス
上方3段が寄贈を受けたイコン20点



山下りん



受贈イコン6点のうちの1点
「聖使徒ペートル（ペトロ）、
聖使徒パウエル（パウロ）」



日比和平



受贈イコン14点のうちの1点
「三人の神徒（聖三位一体）」

受贈イコン20点のほか、所蔵イコンコレクション
(ロシアイコン・ギリシアイコン20点)を同時展示

- ◆会 期 2015年10月5日(月)～10月23日(金)
- ◆特別協力 宗教法人静岡ハリストス正教会・特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜
- ◆展示協力 白凜居・時津画廊
- ◆時 間 9:00～17:00(入館は16:30まで) 入館無料
- ◆休 館 日 土・日曜日(10月12日[月・祝]は開館)
- ◆会期中、学芸員が展示資料について解説するギャラリートークを下記の日程で行います
10月9日(金)、10月14日(水)、10月19日(月) 各回とも13:30～14:30(予約不要)

展覧会への招待

ミュージアム・コレクション展 2015 錦絵にみる子供の遊び

当館の教育史分野の所蔵資料には、子供の遊びや生活に関わる資料も多数含まれます。これは子供の遊びをはじめとする生活文化が、教育と密接な関係にあるという方針から収集したものです。

この展覧会では、子供にとって大切な遊びという生活文化を、江戸後期から明治期につくられた錦絵から紹介いたします。錦絵には、年中行事や祭りの中で戯れる姿、川遊びや雪遊びなど季節の遊び、仲間と競い合い、ふざけ合う姿、玩具を使って遊ぶ姿など、当時の絵師たちが描いたさまざまな子供の姿や遊びが見られます。中には当時の政治状況を子供の遊びで表した風刺画もありますが、錦絵には子供たちののびやかでいきいきとした様子や今では見られない遊びが描かれています。

なお、会期中当時の遊びを体験できるワークショップや展示の見どころを解説するギャラリートークを実施いたします。

皆さまのご来館をお待ちいたしております。



稚遊(おさなあそび)四季之内 夏
歌川(一猛斎)芳虎画 大判錦絵 江戸時代後期

◆会 期 2015年11月2日(月)～12月19日(土)

◆時 間 9:00～17:00(入館は16:30まで) 入館無料

◆休館日 11/10～12、11/29

【展示内容】

節句や年中行事の中での遊び／季節の遊び／身体を使った遊び／勝負・競技の遊び／模倣の遊び／玩具・遊び道具を使う遊び／遊び尽くし絵(錦絵65点のほか玩具類を参考展示)

【関連事業】

◆資料に描かれた遊びを体験できるワークショップを下記の日程で行います

【日 時】 2015年11月23日(月・祝) 13:00～15:30

【対象者】 小学生(保護者同伴のこと)、15組、参加費無料

【内 容】 竹馬、竹ぼっくり、たが回し、独楽(こま)、シャボン玉など
(詳細はホームページに掲載)

【申 込】 電子メールで事前申込(museum@tamagawa.ac.jp)

11月2日受付開始・先着順

◆会期中、学芸員が展示資料について解説するギャラリートークを下記の日程で行います

【日にち】 2015年11/13(金)、11/18(水)、11/24(火)、12/4(金)、12/10(木)

【時 間】 各回とも13:30～14:30(予約不要)

報 告

第3回カサド・原資料整理・調査報告会

2015年3月16日に、「ガスパール・カサド及び原智恵子関係資料整理・調査プロジェクト」の第3回報告会を開催し、整理の進行状況の報告と、今後の目録作成公開及び2016年のカサド没後50年・智恵子没後15年記念祭(シンポジウム・演奏会)開催の方針について協議を行いました。

イコンの寄贈

2ページに詳述の通り、静岡ハリストス正教会から、日本初のイコン作家として知られる山下りんによるイコン6点と、日比和平作のイコン14点の寄贈を受けました。これらは長く同教会聖堂内に掲げられ、関係者の皆さんに親しまれてきたものです。この度聖堂改築を機に取り外したものを、当館のイコンコレクション及びこれまでの展示活動等を評価され、2015年3月にご寄贈くださいました。

常設展示更新

2015年4月、常設展示の内容を一部更新し、新テーマの展示の導入や、展示資料の入れ替え等を行いました。

館名英語表記の変更

2015年度から当館の英文での名称表記を Tamagawa University Museum of Education と改称しました。

博物館実習

通信教育部「夏期スクーリングⅡ期」31名
2015年8月10日～16日

人の動き

研究員阿部敏雄及び多賀譲治が定年により、嘱託職員近藤誠が期間満了により退職しました。(以上、2015年3月31日付)

前当館嘱託研究員の栗林あかね(音楽学)を講師(専任)として採用しました。事務担当の課長松田幸秀が総務部に転出し、後任としてeエデュケーションセンターから光森智樹が転入しました。玉川学園小学部教諭の加瀬元博が、出向により当館に着任しました。また、嘱託職員として佐藤直人が配属されました。(以上、2015年4月1日付)

統計(2014年10月～2015年3月)

開館日数 127日 入館者数 2236名
収集

〔資料〕	日本教育史	57件
	芸術	2件
	考古	1件
	シュヴァイツァー関係	1件
	玉川学園関係	55件
〔図書〕	和書	319冊
	洋書	0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	34冊
	洋雑誌	18冊

資料をご寄贈いただきました(順不同・敬称略 2015年2月～7月)

宗教法人静岡ハリストス正教会 山下りん作イコン 6点、日比和平作イコン 14点
国立台湾図書館 教育史関係資料 1点
野間 輝一 同窓会報 1点
藤澤 平一 教育史関係資料 52点
藤沢 俊 教育史関係資料 1点
長野 良一 同窓会報等 7点
内藤 重信 同窓会報 1点
貴志 豊和 同窓会報 1点

ありがとうございました

学内連携の教育活動 大学生への教育活動

— 芸術学部「アーツ・クリティシズム」との連携 —

今回は芸術学部開講科目「アーツ・クリティシズム（美術批評）」と連携した教育博物館の活動について紹介致します。「アーツ・クリティシズム」の授業では、複数の美術館訪問、ディスカッション、作品の鑑賞等を通して美術作品の批評力を培うことを目的としています。当館を利用した教育活動もその一環として行われました。

学生たちは、大西館長より当館の沿革や所蔵資料、企画展や教育活動等の説明を受けたのち、第二展示室（美術作品の展示室）を利用した活動を行いました。まず、学生たちは5分間、1人で展示室の何点かの作品をじっくり鑑賞して、感じたことを携帯電話に録音しました。次に数人ずつのグループになり、同じ作品を鑑賞し、それも録音しました。その後に「個人鑑賞 (individual observation)」と「グループ鑑賞 (group observation)」における自分の発言を聴き比べ、両者の違いを考えました。

展示室での活動の後は、ディスカッションを行い学んだことをまとめます。

「個人鑑賞とグループ鑑賞における自分の発言の違いは何でしょうか」という教員の問いに、ある学生は「個人鑑賞の時のコメントは短いものでしたが、グループでの鑑賞は参加者それぞれの意見を聴いたうえで自分も発言するので、コメントが長く内容も充実したものになりました」と答えていました。また、別の学生は「グループでのディスカッションを通して、同じ作品でも人によって見方が異なることが分かりました」と発言していました。このように学生たちは博物館での体験を通して、「アーツ・クリティシズム」を学んでいきます。こうしたことから、この活動は、まさに学生主体のアクティブ・ラーニングであるといえるでしょう。

担当教員の Seow Ai Wee 助教はニューヨークのホイットニー美術館でエデュケーターの勤務歴をもつ鑑賞教育のプロフェッショナルです。そのため、授業は携帯電話を活用して学生に絵画を鑑賞した感想を録音させるなど、彼女のアメリカの美術館での教育体験をベースとして授業を組み立てています。授業も基本的には英語で行われます。こうしたアメリカ式の授業にはじめは少し当惑していたような学生も、教員の積極的な指導のおかげで、最後は芸術作品を鑑賞する楽しさを実感していたようです。

(宇野慶)



展示室での活動



大西館長による説明

2015年度下半期 開館カレンダー

2015年 10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2016年 1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

10月5日(月)～10月23日(金) 特別展示 静岡ハリストス正教会寄贈 山下りん・日比和平が描いたアイコン

11月2日(月)～12月19日(土) 企画展 ミュージアム・コレクション展2015 錦絵にみる子供の遊び

第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

休館日

1月7日(木)～1月29日(金) 館内整備のため展示公開休止(事務は通常どおり行います)

※この予定は、大学授業・行事日程等により変更することがあります。

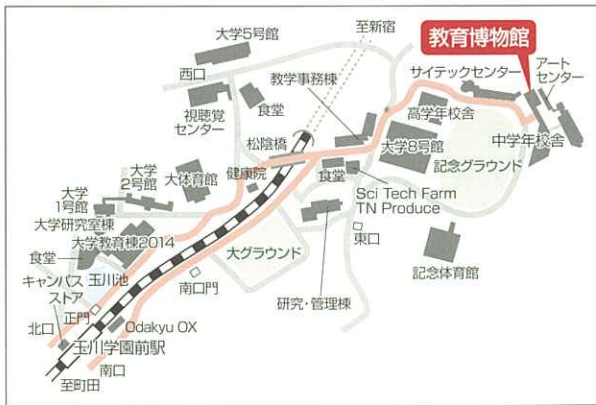
詳細は当館ホームページをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間
(展覧会会期中並びに日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合わせください。)

入館料 無料



交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩15分
駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。

(来館者用駐車場はありません。また校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車での来館はご遠慮下さい。)

博物館ニュース SHÛ No.45

2015年9月10日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/campus/museum/

『SHÛ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐる、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。